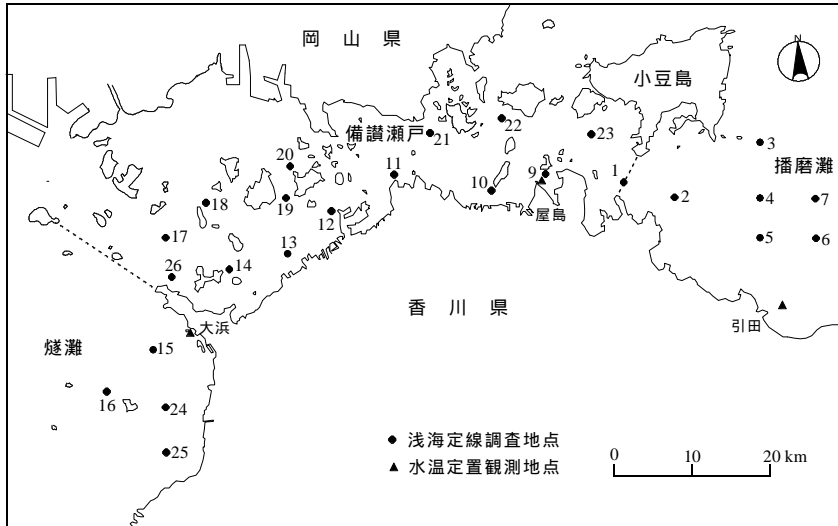


香川県漁海況速報 平成18年 5月 (H18-2号)

香川県水産試験場

1. 海況

1) 観測地点



2) 浅海定線調査

(1) 調査日

平成18年 5月 2日 (播磨灘) 1日 (備讃瀬戸、燧灘)

(2) 水質概況

平年と比較すると、水温は「かなり低めから平年並み」、塩分は「やや低めから平年並み」、透明度は「かなり低めから平年並み」、溶存酸素は「やや低めからやや低め」であった。
 平年偏差 = 平均値 - 平年値

		水温 (°C)			塩分 (PSU)			透明度	溶存酸素 (ml/L)	
		表層	10m層	底層	表層	10m層	底層	(m)	表層	底層
播磨灘	7地点平均値	12.7	12.4	11.5	32.4	32.4	32.6	8.4	5.65	5.45
	平年値	14.1	13.2	12.1	32.2	32.3	32.4	8.4	6.06	5.43
	平年偏差	-1.4	-0.8	-0.6	0.2	0.1	0.1	0.0	-0.41	0.02
	状況	かなり低め	やや低め	やや低め	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	やや低め	平年並み
備讃瀬戸	14地点平均値	13.7	13.2	13.1	32.8	32.8	32.8	5.1	5.39	5.33
	平年値	14.1	13.8	13.7	32.5	32.5	32.5	5.7	5.64	5.59
	平年偏差	-0.4	-0.6	-0.6	0.3	0.3	0.3	-0.6	-0.25	-0.26
	状況	やや低め	やや低め	やや低め	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	やや低め	やや低め
燧灘	4地点平均値	15.9	12.7	12.2	32.9	33.1	33.2	5.7	5.57	5.20
	平年値	15.6	13.6	12.6	32.8	32.9	33.1	10.3	5.73	5.17
	平年偏差	0.3	-0.9	-0.4	0.2	0.2	0.1	-4.6	-0.16	0.03
	状況	平年並み	やや低め	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	かなり低め	平年並み	平年並み

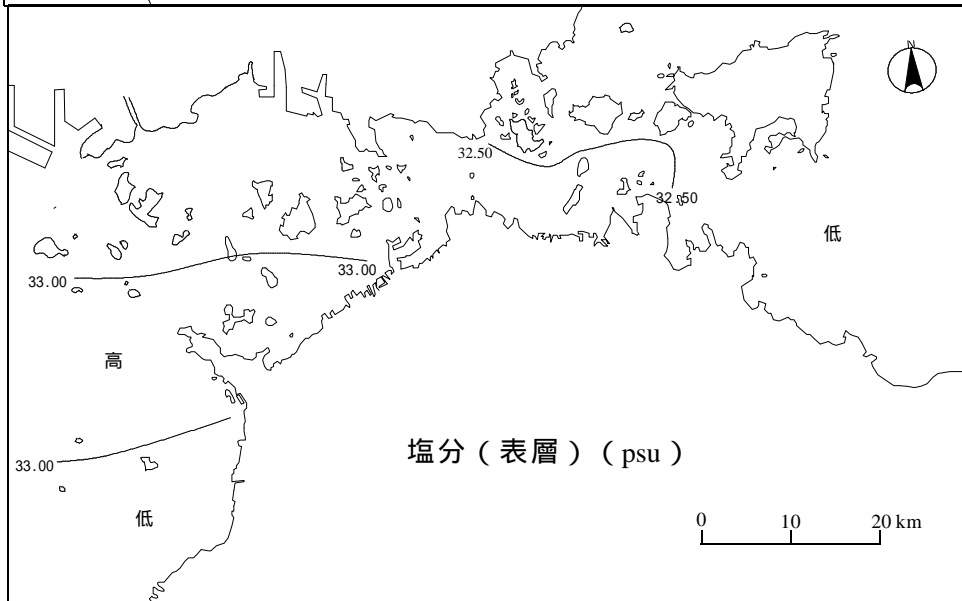
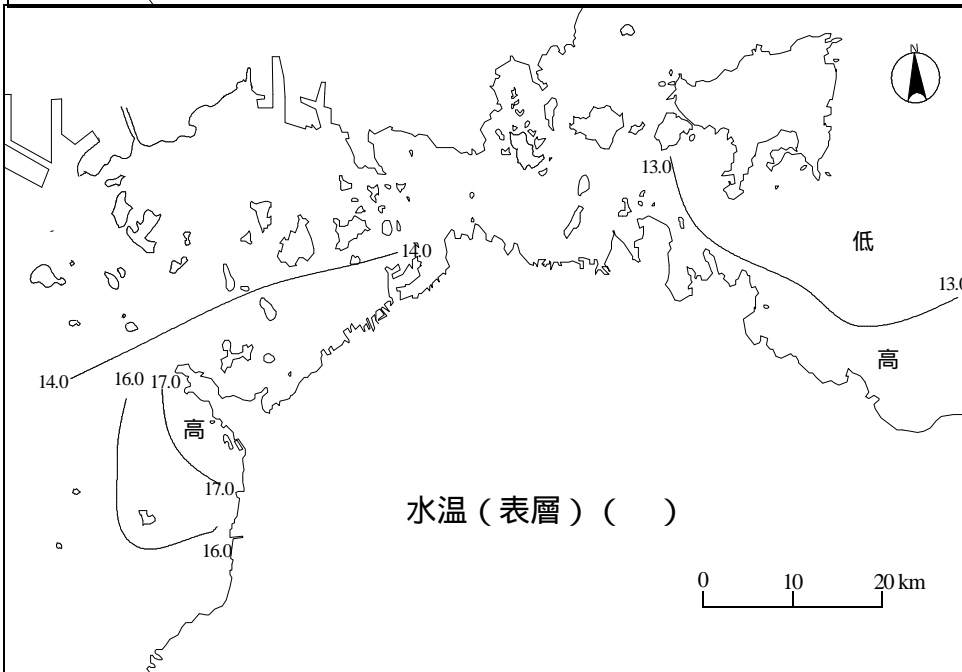
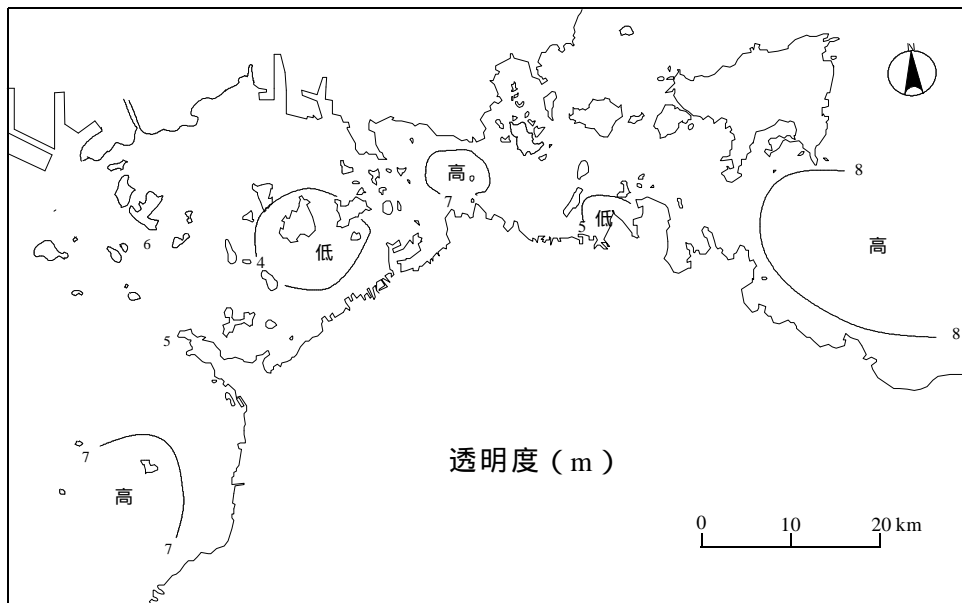
平年値の算出期間

水温、塩分及び透明度：昭和48年（1973）1月～平成13年（2002）12月

溶存酸素：昭和48年（1973）2月～平成13年（2002）12月

水温は、毎月1日の値に補正。

平年並み	0	平年偏差 < 0.6	(: 標準偏差)
やや高め (やや低め)	0.6	平年偏差 < 1.3	
かなり高め (かなり低め)	1.3	平年偏差 < 2.0	
著しく高め (著しく低め)	2.0	平年偏差	



2) 定置観測(水温)

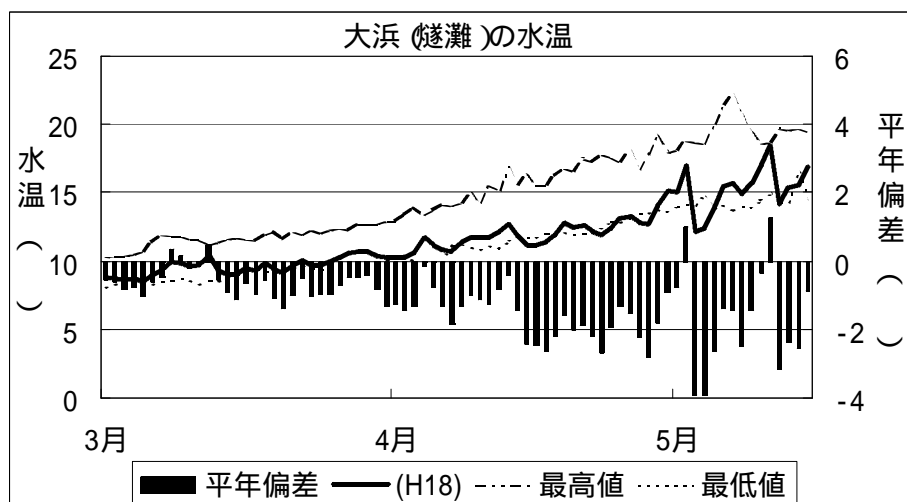
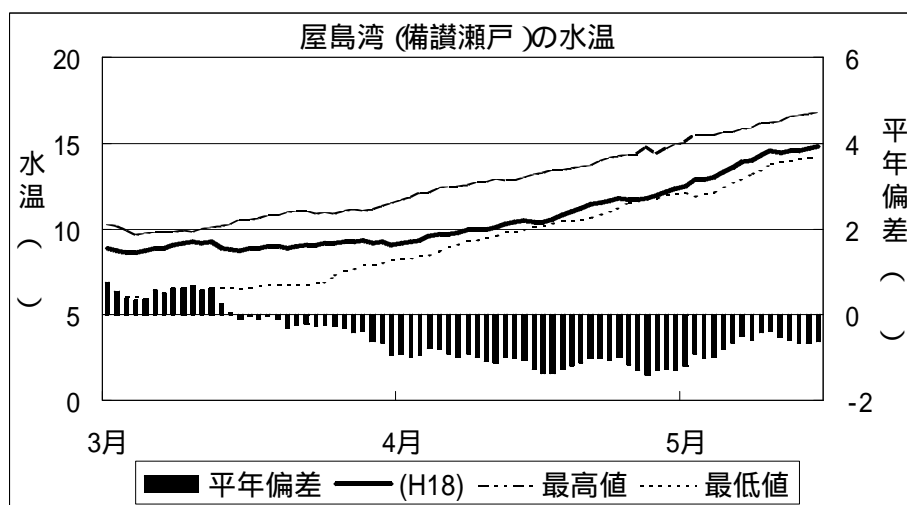
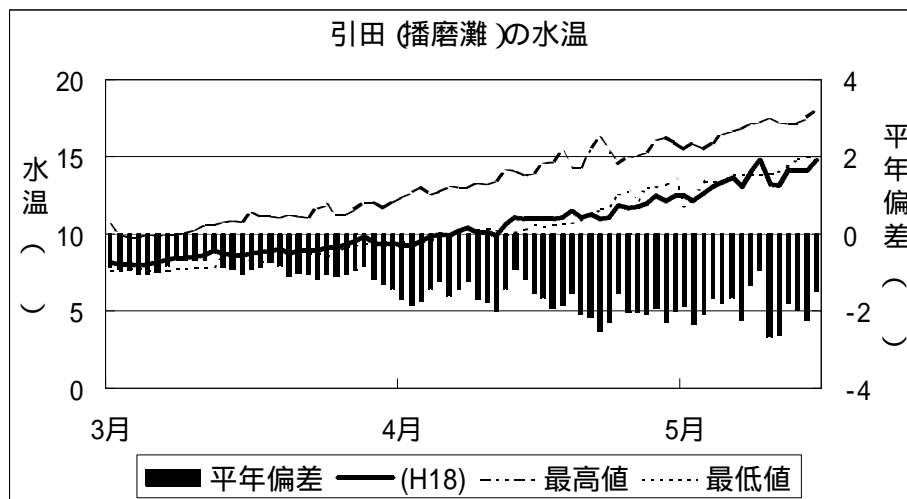
播磨灘(引田): 3月上旬には平年偏差が - 0.8 前後で推移していたが、中旬から低下し - 1.1 前後で推移、4月上旬以降 - 1.5 ~ - 2.0 前後で推移している。

備讃瀬戸(屋島): 3月中旬から平年偏差が - となり、4月上旬には - 1.0 前後で推移していたが、5月に入ると - 0.6 前後で推移するようになった。

燧灘(大浜): 3月中旬以降、平年偏差が - 2.0 前後で推移していたが、5月に入ると + となる日がある一方、 - 4.0 弱の日もあるなど大きく変動しながら推移している。

平年値の算出期間 引田及び大浜: 平成元(1989) ~ 平成17(2005)年

屋島: 昭和50(1975) ~ 平成17(2005)年



3) 赤潮

播磨灘：発生なし。

備讃瀬戸：発生なし。

燧灘：5月上旬、筋状のノクチルカ赤潮の発生が確認された。

4) 卵稚仔

調査日：平成18年5月2日（播磨灘） 1日（備讃瀬戸、燧灘）

出現量

個（尾）/ 曳網

	カタクチイワシ		マイワシ		サワラ		その他の魚類	
	卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘平均	16.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	8.25	0.38
備讃瀬戸平均	0.20	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	15.20	1.00
燧灘平均	14.00	0.29	0.00	0.00	0.00	0.00	10.43	1.71
総平均	7.63	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	12.23	1.00

対平年値

	カタクチイワシ		マイワシ	
	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘平均	151.2%	0.0%	0.0%	0.0%
備讃瀬戸平均	16.3%	0.0%	0.0%	0.0%
燧灘平均	30.9%	12.0%	0.0%	0.0%
総平均	24.6%	3.2%	0.0%	0.0%

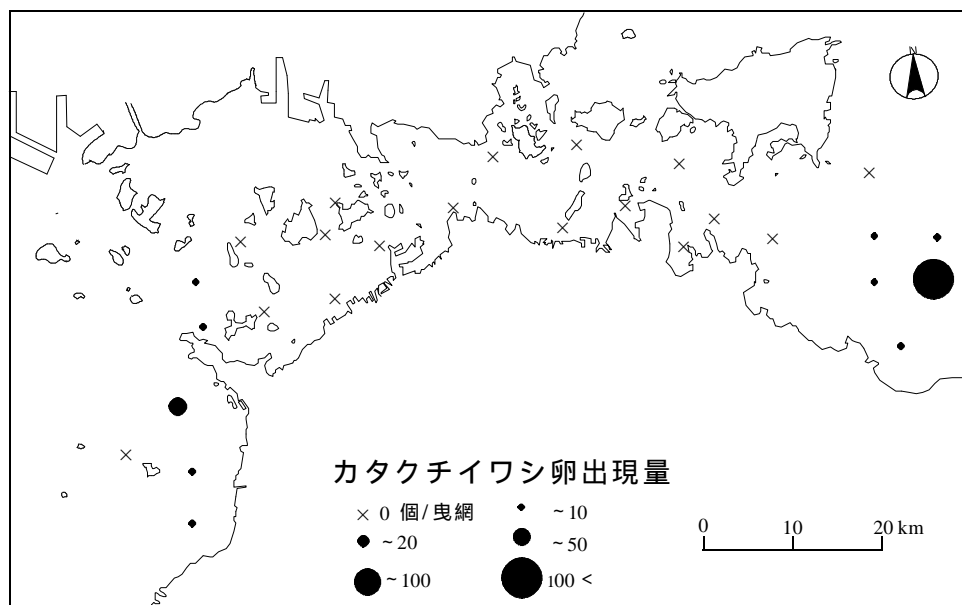
- :平年値が0の場合を示す。

平年値の算出期間

カタクチイワシ：昭和55（1980）～平成17（2005）年度

マイワシ：平成5（1993）～平成17（2005）年度

各調査点でカタクチイワシ卵の出現は、次のとおりである。



2. 漁況

4月からの漁況は次のとおりである。

海 域	漁 況
播 磨 灘	底びき網では主にウシノシタ類、マコガレイ、アカガイ、シャコ、トリガイ、テナガダコが漁獲されている。サワラ流し刺し網は4月20日から操業が開始されたが、前年と比較して3分の1程度の漁獲量である。東讃のシラスの船曳網は5月20日から操業が開始されたが、魚影がなく操業を見合わせている。
備 讃 瀬 戸	底びき網では主にウシノシタ類、メイタガレイ、マアナゴ、マダイ、イイダコ、テナガダコが漁獲されている。高松・庵治沖のイカナゴ込網の4月までの漁獲は、約4000トで前年の約1.8倍と好調である。
燧 灘	底びき網では主にシャコ、コノシロ、トカゲエソが漁獲されているが、全般的に低調である。桁網ではマダイ、ウマヅラハギ、スズキ、ヒラメ、イカ類が漁獲されているが、ウマヅラハギ、イカ類が少ない。さより機船船びき網は5月に入って150～200kg / 日・隻前後の漁獲量に増加した。大きさは中、小主体になって魚価は安くなっている。